

## 柳川数一郎「日記書契」について

著者	?橋 淳, 中川 紗智, 花木 宏直
著者別名	Takahashi Jun , Nakagawa Sachi , Hanaki Hironao
雑誌名	歴史地理学野外研究
号	16
ページ	53-62
発行年	2014-03
その他のタイトル	Introduction to the Diary (Nikkishokei) Written by Yanagawa Kazuichiro
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2241/00124491">http://hdl.handle.net/2241/00124491</a>

# 柳川数一郎「日記書契」について

高橋 淳・中川 紗智・花木 宏直

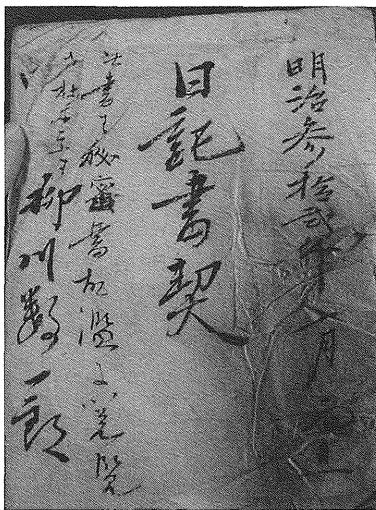
## I 解題

筑波大学歴史地理学研究室では、平成24~25(2012~13)年度に神奈川県津久井郡旧青根村(現、相模原市緑区青根)を研究対象地域として、近世期から近代期にかけての関東山地東麓における地域変容に関する共同調査を行った。調査を通じて、青根村荒井地区の柳川家より、明治32(1899)年に当主の柳川数一郎が記した「日記書契」という資料を見出すことができた(第1図、第2図)。調査に参加した高橋と中川、花木は、本資料が明治中期の関東山地東麓の生活の実態を知る上で貴重な資料であると考え、翻刻を行った。

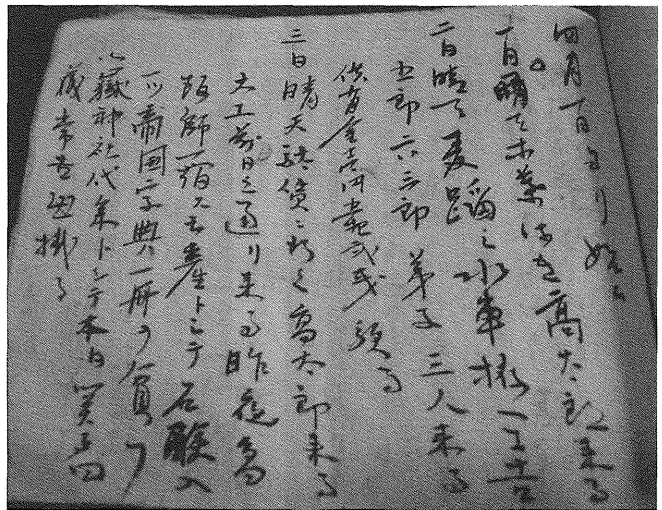
柳川家は、成立年次は明確ではないが、遅くとも近世後期には荒井地区に居住していた。また、家号を「オモテ」といい、近世期に青根村上野田地区にある家号「シモ」の山口家と交代で青根村の名主を務め、小田原藩の大名行列の通行時には

家を宿舎に提供していたといわれている。近代期以降も多数の田畑や山林を所有し、稲作や養蚕業に加え、薪炭の仲買と米穀や日用品等の販売等の多様な家業に従事した。柳川数一郎は、現当主の義祖父にあたり、家業に加え津久井郡会議員をはじめとして、さまざまな公務にも従事した。

「日記書契」に記される日付は、明治32年1月1日から10月30日までと、年次の記載がない4月1日から4月27日、5月15日、16日、18日、6月1日から7月12日、8月11日である。なお、年次の記載のない箇所について、明治32年の内容と大きな相違はないことや、本資料の末尾には日記の他の内容と直接の関係が不明瞭であるが、明治33(1900)年9月3日付にて青根村役場より農会設立に伴い柳川数一郎に農会会員の勧誘を依頼する書類が挿入されていることから、明治33年の記録と推察される。内容は、天候と、主に家業に関する事柄が記されている。記載のあり方は、たとえば明治32年1月3日付では「晴天 炭焼きに行



第1図 「日記書契」表紙



第2図 「日記書契」記載例(年次不明4月1~3日付)

く」と簡潔に記されており、明治32年1月19日付から2月14日付までは「同断」のみ記されている。つまり、本資料は、時事や日々の出来事に対する感想を詳細に記したものではなく、日々の出来事を簡潔に記し、とくに出来事がない日は記録を省略するという記載のあり方がみられる。

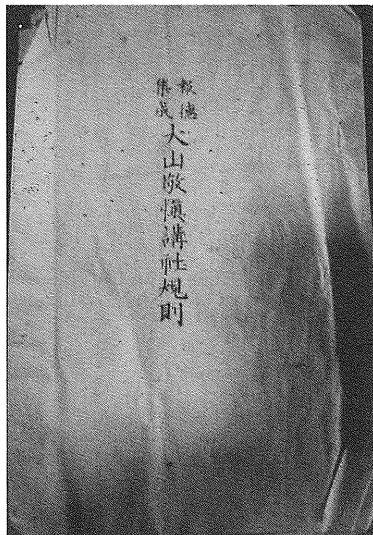
このような本資料には、注目すべき事象が多く記されている。柳川家の家業については、雇人を雇用し、稲作や大麦、小麦、粟、芋、甘藷、大根、豆、養蚕等の農業や、炭焼やスギの植林、スギやクワの苗木の販売といった林業に従事していたことがわかる。とくに、明治32年10月29日付には「駒割へ過燐酸一斗一升使ふ」、10月30日付には「道側過燐酸一斗二升使用ス ツルシ小麦播く」と記されており、麦作への化学肥料の使用がみられた。

商業については、明治32年7月21日付にて「川和へ駄賃に行く 炭六俵貳円四拾八銭」と記されていることをはじめ、炭の販売先として津久井郡旧中野村川和地区（現、相模原市緑区）が登場する。消費生活の実態についても、明治32年9月30日付にて「駄賃二行く 買物費用 一金貳円六拾銭五歩 炭六俵 一 〇拾八銭 かまぐち 一 〇拾銭 はさみ 一 〇拾銭 ようじひも

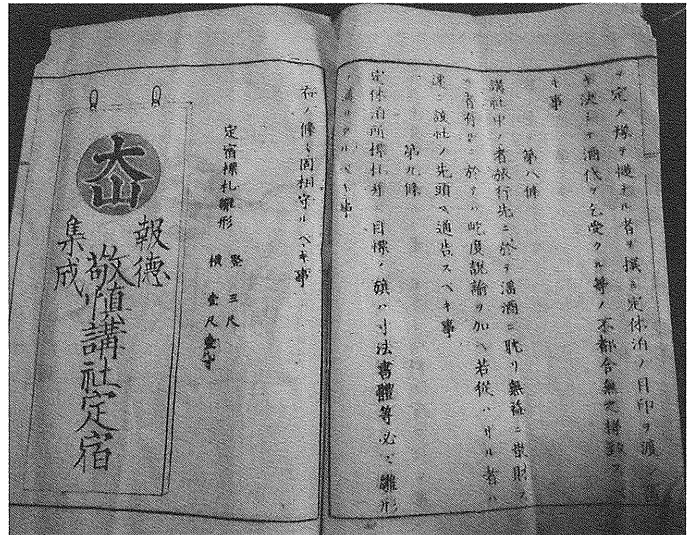
一 〇拾銭 足袋一足 一 〇拾銭 股引 一 〇拾八銭 綿ふらん 一 〇拾四銭 袖一組 一 〇八銭 草履 一 〇貳拾銭 小使費 計壹円六拾八銭」と記されており、薪炭を販売した利益で刃物や衣類をはじめとするさまざまな日用品を購入していた。なお、川和地区については、明治32年7月11日付にて「馬病気に罹る」、7月12日付にて「川和獣医荒津為次郎先生来り最速全快」と記されており、薪炭の販売や獣医の招へいをはじめ、青根村荒井地区をめぐる中心地の一つとして機能していたことがうかがえる。

また、物資の購入に注目すると、明治32年6月2日付にて「橋本へ電気を買いに行く 炭六俵壹円拾貳銭」と記されており、薪炭の販売とあわせて高座郡旧相原村橋本地区（現、相模原市緑区）で「電気」と記される何らかの事物を購入していた。明治32年7月31日付にて「東京へ薬買に行く」、8月1日付にて「立川宿り」、8月2日付にて「東京より帰る」と記され、3日間かけて東京方面へ薬の購入に出かけていた。また、年次不明5月15日付にて「八王子へ土管注文に行く」と記され、八王子（現、東京都八王子市）方面との交流もみられた。

さらに、信仰に注目すると、明治32年1月1日



第3図 「大山敬慎講社規則」表紙



第4図 「大山敬慎講社規則」記載例

には、荒井地区にある御嶽神社と青野原村や鳥屋村の境界にあたる稜線にある焼山神社へ初詣に出かけていた。また、明治32年8月17日付の「倉次郎大山へ行き不参」という記述をはじめ、大山（現、神奈川県伊勢原市）への参詣に関する内容が多数みられた。一方、明治32年2月19日付には「今夕津島おし宿る」、2月21日付にて「おし宿る」等、津島神社（現、愛知県津島市）をはじめとする御師の宿泊もみられた。柳川家は、大山御師が巡回する際に宿泊を提供してきた家であり、作成年次は不明であるが「大山敬慎講社規則」という資料も残存する（第3図、第4図）。

娯楽に注目すると、明治32年5月17日付にて「当日八旧四月八日祝日に当る 共有桑原耕ニ行き兎撃をなす 始ニ山へ登りてくらみまで行き鳩の卵を一ツ苦む 昼喫はずにて空腹する」、8月14日付にて「狩に行く」と記されており、兎等の狩猟や山登りといった娯楽がみられた。養蚕の一段落した年次不明6月13日付には「苦勞伏ヲナス 終ニ祝トシテ酒五升井上基一方ヨリ貸金貳円ニテ持来ル 井上佐吉夫婦八時頃来ル 佐吉苗取ニ行く」と記され、飲酒や慰労が行われた。

一方、明治32年10月2日から4日付にて、数一郎が父の見舞のため東京の病院へ行った際の記録には、「橋本を立ッ金子へ行く費用 一 金一銭 甘藷 一 ヶ二銭五厘 共進会費 一 ヶ参銭 しろこ 一 ヶ貳拾八銭 硝子時計 一 ヶ八円 四拾銭 時計二箇 一 ヶ拾銭 菓子 一 ヶ拾貳銭 飯料炭 一 ヶ拾銭 柿漬 計九円六銭五厘」や、「時計へ油ヲ抽ス 倉市君へ時計相渡ス 残金貳円貳拾五銭かし 新次郎へ時計を渡す 代金参円八拾銭ニテ渡す」とあり、時計の値段等も記されている。また、年次不明4月3日付にて「昨夜富永師一宿ス 土産として石鹼一ツ帝國字典一冊ヲ貰フ」と記されており、宿泊の手土産として石鹼や辞書の授受がみられた。

本資料は、荒井地区の地元有力者である柳川家を事例に、明治中期における地元有力者の多角的な家業経営の実態や、薪炭の販売と物資、サービスの購入を通じた明治中期における関東山地東麓

の地域間関係が判明する。さらに、本資料は、大山信仰や狩猟をはじめとする信仰や娯楽の実態や、化学肥料、石鹼、時計、辞書といった近代期以降に日本に導入された商品の利用等、明治中期の関東山地東麓における生活の実態が判明する貴重な資料である。

## II 翻刻

明治参拾貳年一月元旦  
日記書契  
此書者秘密書記溢に覺覽を禁示す  
柳川数一郎

一月部  
一日 晴天 早朝折掛を拵へて御嶽神社へ参詣に行夫れより焼山神社へ参詣に行く途中富士見松辺雪積有登るにすべりて一時ハ登れさるかと思候得共尚忍耐心を起して静かに足を進めて漸く頂上に至りて飯る 夫れより炭焼かまへ行に至りし時倉次郎掃ききりて休み居し処たてる 今朝加藤房太郎へ手紙を出す村会ありて出席す  
二日 晴天 炭焼きに行く 炭負はじめ  
三日 晴天 炭焼きに行く  
四日 晴天 炭焼きに行く  
五日 晴天 炭焼きに行く  
六日 晴天 捨次郎鯛太郎来り栗木を伐採する  
七日 晴天 捨次郎鯛太郎屋根板つきをなす  
八日 晴天 捨次郎鯛太郎屋根板つきをなす 駄賃に行く  
九日 晴天 捨次郎鯛太郎屋根板つきをなす  
十日 晴天 捨次郎鯛太郎屋根板つきをなす 駄賃に行く

十一日 晴天 捨次郎鯛太郎屋根板つきをな  
 す 余生炭焼に行く  
 十二日 晴天 捨次郎鯛太郎屋根板つきをな  
 す 炭焼に行く 大坂の□ひ  
 ろう  
 十三日 晴天 捨次郎鯛太郎来る 株式会社  
 へ絹三匁をかきばまへ届けるる書面  
 を出す 今夜も五人とまる  
 十四日 晴天 炭焼に行く 風吹く寒さ甚し  
 十五日 晴天 風強く吹く酷寒し 同断  
 十六日 晴天 風烈しく吹く寒さ酷し 同断  
 十七日 晴天 同断 異議なし  
 十八日 晴天 同断 異状なし 朝薄曇りに  
 て雨もようなり  
 十九日 晴天 同断  
 二十日 晴天 同断  
 二十一日 晴天 同断  
 二十二日 晴天 同断  
 二十三日 晴天 指を斬りて休み  
 二十四日 曇天 同断 父関へ行く  
 廿五日 晴天 同断  
 廿六日 同断  
 廿七日 同断  
 廿八日 同断  
 廿九日 同断  
 三十日 同断  
 三十一日 同断  
  
 二月  
 一日 同断  
 二日 同断  
 三日 同断  
 四日 同断  
 五日 同断  
 六日 同断  
 七日 同断  
 八日 同断  
 九日 同断  
 旧曆一月元旦  
 十日 同断 一日竈休み

十一日 同断  
 十二日 同断  
 十三日 同断  
 十四日 同断  
 十五日 雪模様なり 同断  
 十六日 雪ふり 竈へ二人で行く 雪積る事  
 一尺五寸位 夕方止ズ  
 十七日 晴天 竈へ行くに難艱苦勞したり  
 十八日 曇天 雪時々<sup>(ママ 迷々)</sup>班ニふる積る事八寸  
 ばかり  
 十九日 晴天 竈へ行く 今夕津島おし宿る  
 二十日 晴天 休み  
 二十一日 晴天 竈へ行く<sup>(ママ)</sup> くらお拵える お  
 し宿る  
 廿一日 ~~金貳拾七銭関戸ます受取時貸し~~ 金  
 六拾銭柳川とき受取時貸し  
 二十二日 曇天 竈へ行く  
 二十三日 大雨降り 竈へ行く止め  
 二十四日 雨風烈し 竈止め  
 二十五日 雨天  
 廿六日 同断  
 廿七日 同断  
 廿八日 同断  
  
 三月部  
 一日 雨天 同断  
 二日 曇天 同断  
 三日 雨天夕方雷鳴す 同断  
 四日 雨天 同断 照懿倉吉温泉へ出足ス  
 同断  
 五日 晴天寒シ 同断  
 六日 晴天暖 同断 新兵衛来る  
 七日 晴天暖 同断  
 八日 雨天—炭六俵壺門八拾六銭  
 九日 雨天—南風強シ  
 十日 晴天  
 十一日  
 十二日  
 十三日  
 十五日

十六日		十八日	曇天 杉苗四百本持行とちでいる東向の地へ合計九百二拾本植付タリ
十七日			鯛太郎吉五郎来る
十八日		十九日	曇天 杉苗四百本持行ク トチデいろノ桑原ノ上方へ植ル 桑原ノ上ヨリ畦ニカケテ合計四百三拾二本
十九日		二十日	曇天 旧三月拾一日祭典正午ニテ休み 炭かまはき切り
二十日		二十一日	雨天 祭にて休み
二十一日		二十二日	南風吹く 杉苗百本持行く 休み
二十二日		二十三日	晴天 杉苗五百本持行捨次郎鯛太郎来る 母大山へ参詣に行く
二十三日		二十四日	晴天 杉苗貳百六拾本持行く 植切り 捨次郎鯛太郎半日来る
二十四日		二十五日	晴天 芋作り 苗把一把五拾本遺し置持に行く 少しく <small>(ママ、異ナ)</small> 囊りたる様見立る
二十五日		二十六日	曇天 壺千六百五本少き分植換ヘタリ 大麦耕終結 古芋
二十六日		二十七日	晴天 煤掃をなす
二十七日		二十八日	晴天 貳百拾本愛助
二十八日		二十九日	晴天 二百二十五本弥助へやる
二十九日		三十日	晴天
三十日		五月一日	晴天 少しく掃く 父病院へ行く
三十一日		二日	晴天 半数掃く
四月		三日	雨天
一日	雨天	四日	晴天 杉植をなす
二日	南風	五日	曇天 苗おろしをなす
三日	雨天 十二俵出す	六日	雨天 下山を桑原耕に行く
四日	雨天	七日	晴天
五日	曇天 道作り	八日	晴天
六日	曇天 泰助大工来始め	九日	晴天
七日	晴天 大工来る 同断	十日	晴天
八日	雨天 大工来る 同断	十一日	晴天 陸種貳斗ふやかす
九日	晴天 大工来る 善吾と神野川へ遊に行く 夫王来 杉苗七百本井上基一へ送る 氏神へ貳拾壺本植る	十二日	雨天 肥拵をなす
十日	晴天 杉苗百五拾本作太郎へ売る	十三日	晴天 植炭六俵金貳円五拾貳銭 白米一駄八円六拾銭
十一日	晴天	十四日	晴天 芝刈を始む 並炭六俵貳円拾銭 父の許へ鶏卵を送る
十二日	晴天		
十三日	曇天 鎌田藤太郎日雇に来始るとちでいるの木こどり		
十四日	雨天 同断 来る 鎌田来る		
十五日	晴天 同断		
十六日	晴天 杉苗百五拾本「とちでいる」東向ノ地へ植る 捨次郎来る		
十七日	雨天 苗五百本全所へ植る 捨次郎来る		

十五日	晴天 芝刈り 末日八王子町共進会 へ生糸出品届をなす 倉次郎不参	六日	曇天 南風強し 先蚕屋とて下山よ り桑壺駄採る
十六日	雨天 昼飯より田へ行く 夕方より 南風烈しく吹くニ川濫る	七日	曇天 下山より桑四駄採入る
十七日	曇天 当日ハ旧四月八日祝日に当る 共有桑原耕ニ行き兎撃をなす 始ニ 山へ登りてくらみまで行き鳩の卵を 一ツ苦む 昼喫はずにて空腹する 照懿駄賃に行く 並炭六俵貳円拾六 銭	八日	雨天 炭六俵壺円八拾六銭
十八日	甘藷苗をさす 並炭六俵貳円四銭	九日	雨天 南風強し
十九日	晴天 炭拵らへ 月夜野より俵六駄 下のばあより並駄 西より七日駄四 日戻る七拾六駄	拾日	晴天
二十日	雨天 芝刈り 棚の田を□	拾一日	晴天 田植ス
二十一日	曇天 捨次郎父を向に行く 桑原拵 へ鎌田昨夕より病気にて不参 上野 田のおばさん参る	十二日	晴天 田植
二十二日	晴天 小豆を拵る 駒割へ陸稲を作 る拾五升	十三日	晴天
二十三日	晴天 くら屋敷片付け	拾二日	晴天 田植 手伝八左衛門正午より 善右衛門
二十四日	雨天 作る	十三日	雨天 田植前日と雇人同じ
廿五日	晴天 炭六俵金九拾銭陸稲作り	十四日	曇天 忠吉やとう
廿六日	晴天 豆作り	十五日	晴天
廿七日	晴天 桑屋拵へ	十六日	晴天 蕪むし
廿八日	曇天 倉次郎八王子へ行く 炭六俵 金壺円九拾貳銭	十七日	
廿九日	曇天雨模様なり 甘藷作り 藤太郎 芝刈り	十八日	
三十日	曇天雨模様なり □一時金貸し	十九日	
三十一日	雨降り	二十日	
六月		廿一日	
一日	晴天 炭六俵貳円四拾貳銭	廿二日	
二日	晴天 橋本へ電気を買いく 炭 六俵壺円九拾貳銭	廿三日	
三日	雨天 南風烈しく吹く 暖気なり	廿四日	
四日	晴天 南風強し 炭六俵壺円九拾貳 銭	廿五日	
五日	曇天 南風強	廿六日	
		廿七日	
		廿八日	大麦打をなす 手伝人。柳川四郎左 衛門。関戸関作。関戸音吉。関戸 八十吉。柳川鉄造。柳川善吉。関戸 躰太郎
		廿九日	雨天
		三十日	駄賃に行く
		七月一日	雨天
		七月二日	餅粟を蒔く
		三日	曇天
		四日	曇天
		五日	曇天
		五日	曇天 下山ノ山麦刈り 彦作を偏む
		六日	曇天 藤造ノ父来る 宿る

七日	曇天 庄吉手伝 当日藤造ノ寄留届 を送る	五日	
八日	雨天	六日	
九日	雨天 鈴木商店の番頭宿る	七日	
十日	雨天 杉ノ下刈り	八日	晴天
十一日	曇天 昼飯より粟作り 馬病気に罹 る	九日	晴天 南風強し
十二日	曇天 永井源造ヲ頼み来れども全快 ノ見込なき処川和獣医荒津為次郎先 生来り最速全快当日円造手伝ニ来る 川和へ鯛太郎行く	十日	晴天 同断
十三日	晴天 粟作り(倉一)平 <sup>(ママ)</sup> 賃手伝ニ 来ル	十一日	晴天 同断
十四日	晴天 上青根清十郎手伝ニ来ル平賃 手伝小麦こなしをなす 昼飯より周 作善吾ノ手伝粟作り切り	十二日	晴天 同断
十五日	晴天 こなし相終る	十三日	晴天 同断
十六日	晴天	十四日	狩に行く
十七日		十五日	晴天 小舟安太郎喜作安太郎見舞に 来る
十八日		十六日	昨夜大風
十九日		十七日	晴天 小豆採り余生病休みする 倉 次郎大山へ行き不参
二十日		十八日	晴天 倉次郎不参 本日帰る
二十一日		十九日	晴天 異義なし
二十二日		廿日	晴天 二番粟除草
二十三日		廿一日	川和へ駄賃に行く 炭六俵貳円四拾 八銭 倉次郎病気に罹り自家へ行く
二十四日		廿二日	晴天
二十五日		廿三日	晴天 大根作り
二十六日		廿四日	晴天
二十七日		廿五日	晴天
二十八日		廿六日	晴天
二十九日		廿七日	晴天
三十日		廿八日	晴天 南風強し
三十一日	東京へ薬買に行く 藤太郎眼病にて 不参	廿九日	雨天ニ付濫流ル
八月		三十日	雨天
一日	立川宿り	三十一日	雨天
二日	東京より帰る 藤太郎不参	九月部	
三日	晴天	一日	雨天
四日		二日	雨天
		三日	雨天
		四日	曇天
		五日	曇天
		六日	曇天
		七日	雨天
		八日	雨天 頭痛の為藤太郎休み不参



九日	雨天			く相原橋本へ行く 籠屋鎌田藤太郎
十日	曇天			柳川弥助柳川吉助柳川新一郎 橋本
十一日	曇天			へ午前拾壹時着 費用金八錢六厘
十二日	雨天			川和馬渡の茶屋相原渡舟賃壹円小使
十三日	晴天			ニ渡ス 計壹円拾八錢六厘
十四日	晴天		三日	晴天 橋本を立ツ金子へ行く費用
十五日	晴天			一 金一錢 甘藷
十六日	晴天	藤太郎不参はれものにて		一 〃二錢五厘 共進会費
十七日	晴天	藤太郎不参		一 〃參錢 しろこ
十八日	晴天			一 〃貳拾八錢 硝子時計
十九日	晴天			一 〃八円四拾錢 時計二箇
廿日	雨天			一 〃拾錢 菓子
廿一日	曇天			一 〃拾貳錢 飯料炭
廿二日	曇天			一 〃拾錢 柿漬
廿三日	曇天			計九円六錢五厘
廿四日	雨天		四日	晴天 時計へ油ヲ抽ス 倉市君へ時計
廿五日	晴天			計相渡ス 残金貳円貳拾五錢かし
廿六日	晴天			新次郎へ時計を渡す 代金參円八拾
廿七日	全			錢ニテ渡す
廿八日	晴天	金拾五円鏡代金取受る	五日	晴天
廿九日	雨天		六日	雨天
三十日	雨天	駄賃二行く	七日	雨天
		買物費用	八日	雨天 照懿父の許へ行く
		一 金貳円六拾錢五歩 炭六俵	九日	晴天 石垣を作る
		一 〃拾八錢 かまぐち	十日	晴天 病掛す
		一 〃拾錢 はさみ	十一日	晴天 全断
		一 〃拾錢 ようじひも	十二日	全断
		一 〃貳拾錢 足袋一足	十三日	全断
		一 〃參拾錢 股引	十四日	晴天
		一 〃參拾八錢 綿ふらん	十五日	
		一 〃拾四錢 袖一組	十六日	
		一 〃八錢 草履	十七日	晴天
		一 〃貳拾錢 小使費	十八日	晴天
		計壹円六拾八錢	十九日	相原へ行く 病氣重し
十月部			廿日	善右衛門を頼みて父の元へ行く 雨天
一日	晴天	上野田叔母様東野叔父様福太郎保哲見舞ニ来る	廿一日	晴天
二日	晴天	午前壹時に父東京正田病院へ行く見込にて発足途中まで気分悪し	廿二日	晴天 平右衛門へ拾五円かし
			廿三日	雨天 永井法事二行く
			廿四日	父の元へ行く 金八拾錢使をしの

廿五日——晴 ばあ来る  
 廿五日 晴天 来る  
 廿六日 雨天 来る  
 廿七日 晴天 来る  
 廿八日 晴天 来る  
 廿九日 雨天 来る 駒割へ過燐酸一斗一升  
 使ふ 早生麦  
 三十日 道側過燐酸一斗二升用ス ツルシ小  
 麦播く 倉市君の立替へ金相濟み

四月一日ヨリ始ム

一日 晴天 木葉はき高太郎来る  
 二日 晴天 麦踏ミ水車拵へに吉五郎六三  
 郎弟子三人来る 供肴金壹円五拾錢  
 三日 晴天 駄賃ニ行く 高太郎来る 大  
 工前日之通り来る 昨夜富阪師一宿  
 ス 土産トシテ石罅入一ツ帝国字典  
 一冊ヲ貰フ 御嶽神社代參トシテ本  
 日関戸四蔵幸吉出掛る  
 四日 晴天 カギ畑ヘカケ肥ヲナス 大工  
 吉五郎仙之助弟子三人来ル 高太郎  
 来ル萩カリ  
 五日 晴天 大工六三郎一人来る 高太郎  
 来る萩カリ 男今夕引越シタリ  
 六日 晴天 南風ある高太郎来ル萩カリツ  
 カサト二人ニテ甘藷クラヲ拵ラヘル  
 壹円五拾貳錢預リ  
 七日 前夜より朝まで雨ふり 其之旨晴天  
 余生駄賃ニ行く  
 八日 曇天 竈立切り 高太郎来る萩刈り  
 桑苗ヲヲコス 幟ヲ劍次郎持来る  
 九日 曇天 高太郎来る タカザスエ桑植  
 ニ四人ニテ行ク  
 十日 雨天 半日田耕行ク 本日ハ旧三月  
 十一日祭日  
 十一日 晴天 上ノ田祖母さん来ル 休日  
 杉苗六百本長田安太郎へ売却ス  
 十二日 雨天 約中ニテ桑原拵ヘヲナス

十三日 桑原拵へ出来上ル 雨天 共有桑原  
 へ八百本植ル  
 十四日 晴天 道作り善右衛門ヲ頼ミ上ノ原  
 へ使ス  
 十五日 晴天 桑苗とり 叔父桑苗ヲ買ふ  
 十六日 晴天 太郎左衛門杉苗買に来  
 十七 晴天 杉種五合蒔ス 山芋ヲ作ル古  
 芋ヲ出ス  
 十八日 晴天 桑植ヲナス  
 十九日 曇天 麦さくり 井上喜助山口齋々  
 十三日苗ヲ出 東野叔母来ル 高太  
 郎来る 馬ふせ  
 二十日 晴雨天 下でいるノ桑畑耕ヒ  
 二十一日 曇天 杉苗移植凡四千五百位 善太  
 郎来る  
 二十二日 雨天 田ニ行ク  
 二十三日 晴天 桑原皆耕切り 上ノ田祖父様  
 来リ昼ヨリ田植ヘニ掛ル  
 二十四日 雨天 コ芋ヲ植ル  
 二十五日 雨天 休ミ  
 二十六日 雨天 アラクホリ  
 二十七日 曇天 三人ニテ田拵へ 酒造屋敷水  
 田に変更スル 人夫数総三十人ニテ  
 上出来上ル  
 五月十五日八王子へ土管注文ニ行ク 農工銀行  
 へ株金払込ミヲナス  
 五月十六日春ヲ石屋ニ注文ニ付集會ス 代金八  
 円八拾錢ニテ渡ス 内手金貳円善市  
 郎ノ手ニ渡ス  
 五月十八日柳川きし来る 六月三日四日ノ両日  
 不參  
 六月一日 雨天  
 六月  
 二日 晴天 豆作りヲナス  
 三日 晴天 苗へ薄肥ヲ播ス 桑屋拵をな  
 す  
 三日 晴天 薪斬をなす  
 四日 晴天 芝刈鎌揃をなす

五日 曇天 桑切をなす  
 六日 雨天 コモアミ  
 七日 雨天  
 八日 晴天  
 九日 晴天  
 十日 雨天  
 十一日 雨天  
 十二日 晴天  
 十三日 晴天 苦勞伏ヲナス 終ニ祝トシテ  
 酒五升井上基一方ヨリ貸金貳円ニテ  
 持來ル 井上佐吉夫婦八時頃來ル  
 佐吉苗取ニ行ク  
 十四日 晴天 蚕作常ニ惡シト云レタリ 田  
 植ニ行ク 六尺半ハヌケ 鯛太郎ヲ  
 頼ム  
 十五日 曇天 田植ニ行ク 七人ニテ植切り  
 手伝鯛太郎善右衛門  
 十六日 曇天寒し 新田一枚を植ル  
 十七日 曇天 新田植遣 善右衛門炭出手伝  
 十八日 晴天 田拵へ  
 十九日 一日表久保田拵ニ取掛ル 今日搗担  
 ぎに行く 金壺円也石屋ニ渡ス  
 二十日 晴天 田拵へ三人ニ行ク キク感冒  
 ニテ不參  
 二十一日 晴天 桑一駄井上七郎兵衛ニ売ル  
 田拵へ  
 二十二日 曇天 田拵へ  
 二十三日 曇天 桑苗フセ  
 二十四日 雨天 芝刈り  
 二十五日 曇天 芝刈り  
 二十六日 晴天 稲苗ヲ井上叔父ヨリ貰フ 佐  
 吉ヲ使フ  
 二十七日 晴天 田拵へ新田植切り  
 二十八日 雨天 ヨシ大麦刈り日限り  
 二十九日 曇天 佐吉不參 大麦刈 祖母さん  
 不參  
 三十日 曇天 大山へ行ク 芝刈

七月

一日 曇天 芝刈り

二日 晴天 麦入 佐吉疾病ヲ罹ル  
 三日 晴天 麦入 佐吉不參  
 四日 晴天 糶粟作り 俊作小麦刈り 佐  
 吉不參  
 五日 雨天 土手作り 石屋ニ金貳円渡ス  
 六日 曇天 墓辺へ粟作り  
 七日 曇天 小麦刈り  
 八日 曇天 粟作り  
 九日 晴天 麦入切り  
 十日 曇天 粟播き切り  
 十一日 曇天 大麦ぶち 手伝音次郎四郎左  
 衛門  
 十二日 雨天 水車拵へ 石屋へ約定金を残  
 ズ渡し切り

八月十一日 晴天

七円三十一錢五厘

二円四十錢五厘

農一六三号

本村農会設立ノ認可相成候処農會員確定之義相  
 願度候間該組合農業ヲ営ム者及耕地ヲ所有スル  
 者ハ不殘御勸誘之上入会候様御依頼申上候且其  
 人名來ル八月ヲ期シ御報告ノ勞ヲ接シ申度貴殿  
 持ニ相願候也

明治三十三年九月三日

青根村役場

柳川数一郎殿

記 一金拾九錢  
 神奈川県津久井郡  
 青根村貳五〇番地  
 柳川数一郎  
 明治三十三年元旦より  
 雜記数一數一郎

()は判読不能、—は抹消を示す。